

特集 3

商・材・研・究  
MFP(複合機)

# オフィスの情報サーバーに進化 PBX連携で通信系にもチャンス

「MFPはもはや、単なる複合機ではない。今や、オフィスに欠かせない情報サーバーだ」とあるメーカーの販売担当者はこう語る。さらに、基幹システムと連携して経営課題を解決する製品も登場。今後はPBXとの連携で、IP-FAXとしての活用が進む。

「すべてのユーザーが重視するのは“カラー化”への対応で、これがないと、他にどんな魅力的な機能を揃えていても販売には結びつかない」MFPメーカー各社はこう口を揃える。

カラー対応のMFPは、2002年に各主要メーカーが相次いで市場に投入した。当初は大企業を中心に導入

が進んでいたが、04年からは中小企業での導入も始まった。これを受けて各社は、ミドルレンジ～ローエンド製品のカラー化を推進。この秋には多くのメーカーがカラー対応機のフルラインナップを完了した。

パナソニック コミュニケーションズ(PCC)では、2005年の市場でのカラー化比率を台数ベースで32%とみ

る。他社も20～30%と予測しており、カラーMFP時代が到来したといっただろう。

ただ、中堅・中小規模オフィスでは、印刷コストの増大を懸念してカラー対応機の導入を見合わせているところがまだ多い。

この問題を解決するのが東芝テックがこの8月に市場投入した「e-STUDIO 281c/351c/451c」だ。画像情報通信カンパニー Net-Ready MFP事業統括部の井澤庄次統括部長は、「モノクロ印刷時のコストを、モノクロ専用機と同じレベルに押さえ

ることができた」と語る。黒と3色カラーの現像器を分離独立した現像方式の印刷エンジンを開発。トナーも別にするこでこれを実現した。

カラー印刷による出力コストの増大は、先行導入した大企業でも問題になっている。キヤノン販売・ビジネスプロダクト企画本部ビジネスドキュメント機器商品企画部コーポレートプロダクト商品企画課の前野一隆チーフは、「重要な資料や社外向けの資料はカラーで出力し、その他の社内向け資料はモノクロで出力する傾向が出てきた」と説明する。

そこで同社は、この11月から販売を開始した大企業向けの「キヤノン Color imageRUNNER iR C6870/iR C5870シリーズ」で、モノクロの出力スピードを向上。今後印刷枚数が増えても、出力時間を抑えるようにした。

## 誤送信防止機能が必須に

ここに来てニーズが高まっているのがセキュリティ対策だ。これは、今年4月に全面施行された個人情報保護法の影響が大きい。

MFPで特に問題になるのが、FAXの誤送信だ。顧客の情報を誤って別の場所に送付するミスは後を絶たない。特に金融機関は慎重で、FAXを送付する時は必ず2人1組に

なり、お互いが確認してから送付するよう規定しているという。

誤送信についてメーカー各社は、FAX番号を入力した後に「この番号で良いか？」を液晶画面に表示させたり、音声ガイダンスで番号を読み上げる機能を搭載している。

短縮ダイヤルを押し間違えて送るケースも多いようだ。東芝テック・Net-Ready MFP国内マーケティング企画部の加賀谷明彦部長は、「ワンタッチで送付できる利便性を犠牲にしても、確認のプロセスを導入してほしいという強い要望が来ている」と明かす。

また、社員やアルバイトがFAXを使って、顧客の情報を第三者に流す事故も少なからずある。そこで最近では、ICカードによる個人認証システムを内蔵したモデルが各社から続々登場している。大企業では現在、ICカード型の社員証で入退室のセキュリティをかけるのが当たり前になっているので、それをそのままMFPの個人認証にも利用するケースが増えている。

これにより、FAX送信を権限制にし、誰もが勝手に送れないように制限できる。また、誰が、いつ、どこへFAXを送信したか、どれだけの毎数をコピーしたかなどのログを取ること

も可能なので、不正行為の抑制や出力コストの削減を図ることができる。

送信だけでなく、FAX受



NECアクセスステクニカの「MULTINA シリーズ」。IPネットワークソリューションに重点を置き、「IPアドレスFAX」「インターネットFAX」「Scan to E-mail(ワンタッチドキュメントメール)」等の機能を搭載

信時のセキュリティも重要だ。各社のほとんどの製品には、PCに対する受信FAX転送機能が装備されている。

これに加え、NECアクセスステクニカでは「時間指定プリント機能」を採用している。ソリューション販売推進部の吉田誠一郎リーダーは、「FAXは24時間稼働しているため、夜中に受信した注文書などが放置されたままになっている」と指摘する。同社の時間指定プリント機能は、受信FAXを出力する時間帯を自由に設定できる。

## ネット接続で情報漏えいを懸念

インターネットの普及とオフィスのネットワーク化の進展により、MFPにもネットワーク機能が搭載されるようになってきた。このことは、情報漏えいの危険性を孕むことにもなった。

大別すれば、ネットワーク上での情報漏えい、ハードディスクからの

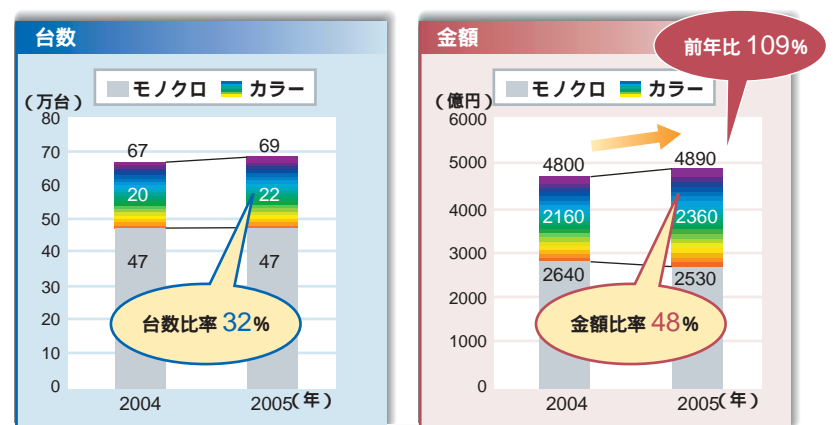


東芝テックの「e-STUDIO451c」。マウスのホイールを回す簡単な操作だけで、取り込んだドキュメントを新しいものから順次ページをめくっていくことができるソフトウェア「e-BRIDGE Viewer」を搭載。また、セキュリティ機能を強化。最大1万人まで登録できる個人管理機能等を装備している



キヤノンの「iR C6870/iR C5870シリーズ」。カラーとモノクロの使い分けニーズに対応し、印刷数が多いモノクロ出力の速度を向上。FeliCa等のICカードに対応し、社員証による使用者管理を実現

図1 デジタル複合機のカラー化率



カラー複合機出荷台数比率は21～30枚機が1位

出典：パナソニック コミュニケーションズ